



FinTechと決済の多様化、 Visaデジタル・ソリューション

ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
取締役 営業本部長
外山 正志

2016年11月18日

ケーススタディ、統計、リサーチ及び推奨は、現状のまま提供されるものであり、情報提供のみを目的とすることが意図されているものであって、運営、マーケティング、法律、技術、税務、財務、その他に関するアドバイスとして、これに依拠すべきではありません。貴社は、貴社がおかれている状況においていかなる法令が適用されるかの判断につき、自らの法律顧問に相談すべきこととなります。推奨又はプログラムにかかる実際のコスト、それによってもたらされるセービング(節約分)及び利益は、貴社独自のビジネスニーズ及びプログラム要求事項に応じて異なる場合があります。推奨は、その性質上、将来のパフォーマンス又は結果を保証するものではなく、また、予見し又は数値化することが困難なリスク、不確実性、及び想定(仮定)に服することになります。Visaは、貴社による本文書に含まれる情報(いかなる性質のエラー、脱漏、不正確さ、不適時さ等も含む)の使用、又は、その使用を通じて貴社が導き出すかもしれない想定(仮定)もしくは結論についての責任を何ら負いません。Visaは、商品性、特定目的適合性についての保証、第三者の知的財産権への不侵害の保証、明示・黙示を問わず一切の保証をせず、これらに関する保証責任を明確に否認します。適用法が許容する限りにおいて、Visaは、あらゆる法理論に基づく一切の損害(特別損害、派生的損害、付随的損害、懲罰的損害等を含むがこれらに限定されない)、又は営業利益の損失、事業の中断、事業上の情報の喪失、その他の金銭上の損失による一切の損害について、たとえかかる損害が生じる可能性について告知されていた場合であっても、クライアント又は第三者に対して何らの賠償責任も負わないものとします。

将来予測に関する記述

本プレゼンテーションには、1995年米国私的証券訴訟改革法(the U.S. Private Securities Litigation Reform Act of 1995)に定義された意味における将来予測に関する記述が含まれています。これらの記述は、「目的」、「目標」、「戦略」、「機会」、「継続する」、「可能である」、「であろう」などの用語や、その他の類似した将来予測を含むことから特定されます。このような将来に関する記述の例としては、会社の戦略と製品の結果、目標、計画、目的についてなどが挙げられますが、それらに限定されるわけではありません。将来予測に関する記述は、その性質上、(i)その記述がなされた時点のことを述べるもので、(ii)歴史的事実を記述したり将来のパフォーマンスを保証するものではなく、(iii)予見または数値化することが困難なリスク、不確実性、及び想定(仮定)、状況の変化に服することになります。したがって、実際の結果が、将来予測に関する記述に比して実質的におよび不利な方向に異なってしまう可能性があり、そのような差をもたらす様々な要因には、新たな法律、規制および市場障壁の影響；経済的要因；組織としての有効性または主要従業員の喪失；新たな商品やビジネスを効果的に開発できないこと；Visa Europeが保有するプットオプションの行使；弊社最新の10-K様式年次報告書および弊社最新の10-Q様式四半期報告書の「リスク要因」の項目で検討されているその他の要因、などが含まれます。このような記述には、過剰に依存すべきではありません。

提供するもの

- 世界200以上の国と地域において
消費者、ビジネス、金融機関そして
政府を結ぶペイメントテクノロジー

提供しないもの

- クレジットカード発行業務
- 貸金業
- 消費者に対する与信判断

Visa の目指すところは「to be the best way to pay and be paid
(誰からも選ばれる決済方法であること)」です。

ペイメントネットワークとしてのVisa の役割

VISA



カード保有者

- 品物やサービスに対する決済取引を行う個人や企業



加盟店
(マーチャント)

- 小売業者、請求者、その他、品物やサービスの決済手段として電子決済を採用している店舗など



加盟店契約会社
(アクワイアラ)

- 小売業者を登録
- 決済処理を提供
- オーソリゼーション、取得、決済を管理
- 繰り返し発生する報告書／明細書の作成
- 小売業者にカスタマーサービスを提供

加盟店契約会社のプロセッサ

VISA

ネットワーク

- 決済処理や運用のシステムを提供
- 商品開発
- リスク管理を提供
- 国際ブランドの確立と管理
- 市場機会(市場での受け入れ)の開拓

カード発行会社のプロセッサ



イシュア

- カードの発行
- カード保有者の信用リスクの引き受け
- カード費用や利率の設定および徴収
- 消費者にカスタマーサービスを提供



このスライドにおいて利用されている全ての商標登録、ロゴマークはその所有者の資産です。このスライドでは、これらを識別する目的のみでの利用され、特定の製品を支持するものではありません。

決済環境の多様化



多様化

このスライドにおいて利用されている全ての商標登録、ロゴマークはその所有者の資産です。このスライドでは、これらを識別する目的のみでの利用され、特定の製品を支持するものではありません。



eコマース



mコマース



非接触



IoT



未来

決済のデジタル化に向けたVisaのイノベーション

Visa
payWave

近接決済
Visa payWave

VISA Checkout

遠隔決済
Visa Checkout

VISA Direct

P2P決済
Visa Direct



セキュリティ対策
Tokenisation



Visaクラウド決済
プラットフォーム



協業機会の創出
VisaNet接続の開放

このスライドにおいて紹介されているVisaのサービスのうち、一部、日本市場においては未提供のものが含まれます。

Visa payWaveは世界70か国以上で利用可能



32%

ロンドン地下鉄Oyster都度利用者の32%*が
すでにEMVコンタクトレスに移行
(うち86%がVisa payWave)



24%



43%



31%



35%



51%



76%

*2016年Q2現在

出典：Visa Europe, Apple Press release, VisaNetデータ, ロンドン交通局

世界のNFC対応端末 (TYPE A/B)導入推移

(百万台)



NFC対応端末導入ベース(World 2013-2019)

出典 <http://www.nfcworld.com/2015/02/24/334209/berg-insight-reports-on-nfc-pos-terminal-growth/>

ペイメント・トークンとは？

ペイメント・トークンはPANの代わりに決済取引に用いられる「代替識別子」。



VisaNet接続の開放



デベロッパー・センター
の立ち上げ

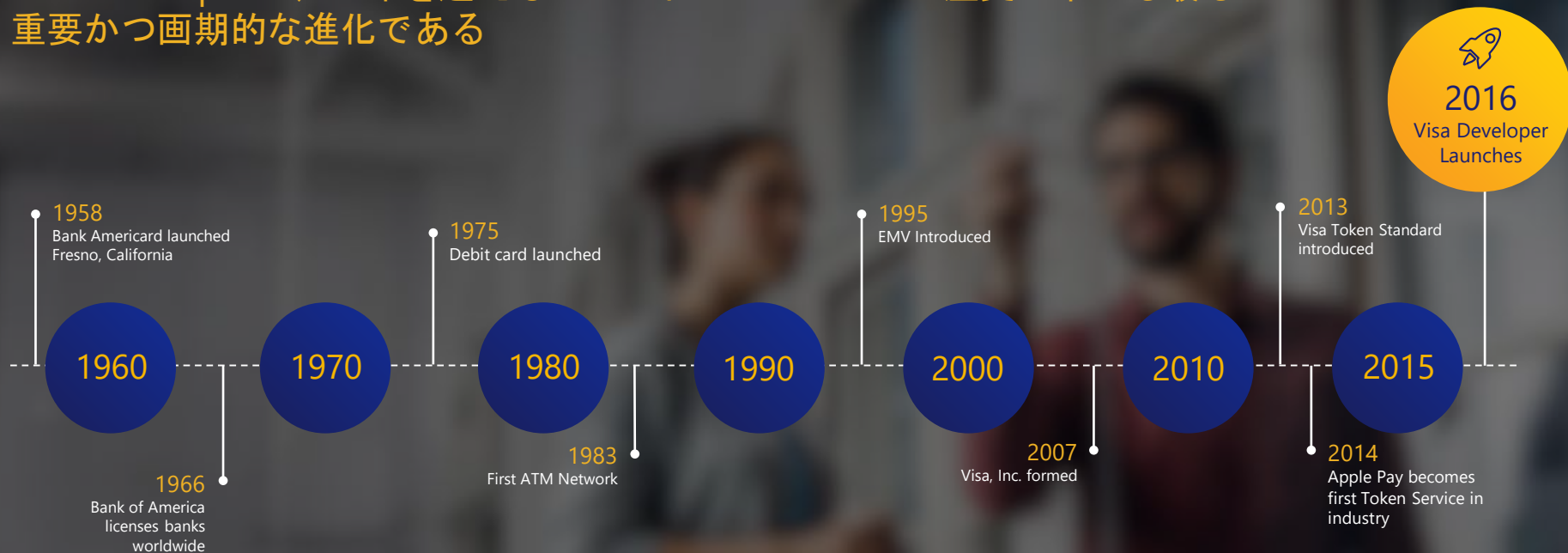
APIの公開

より多くの協業機会
の創出

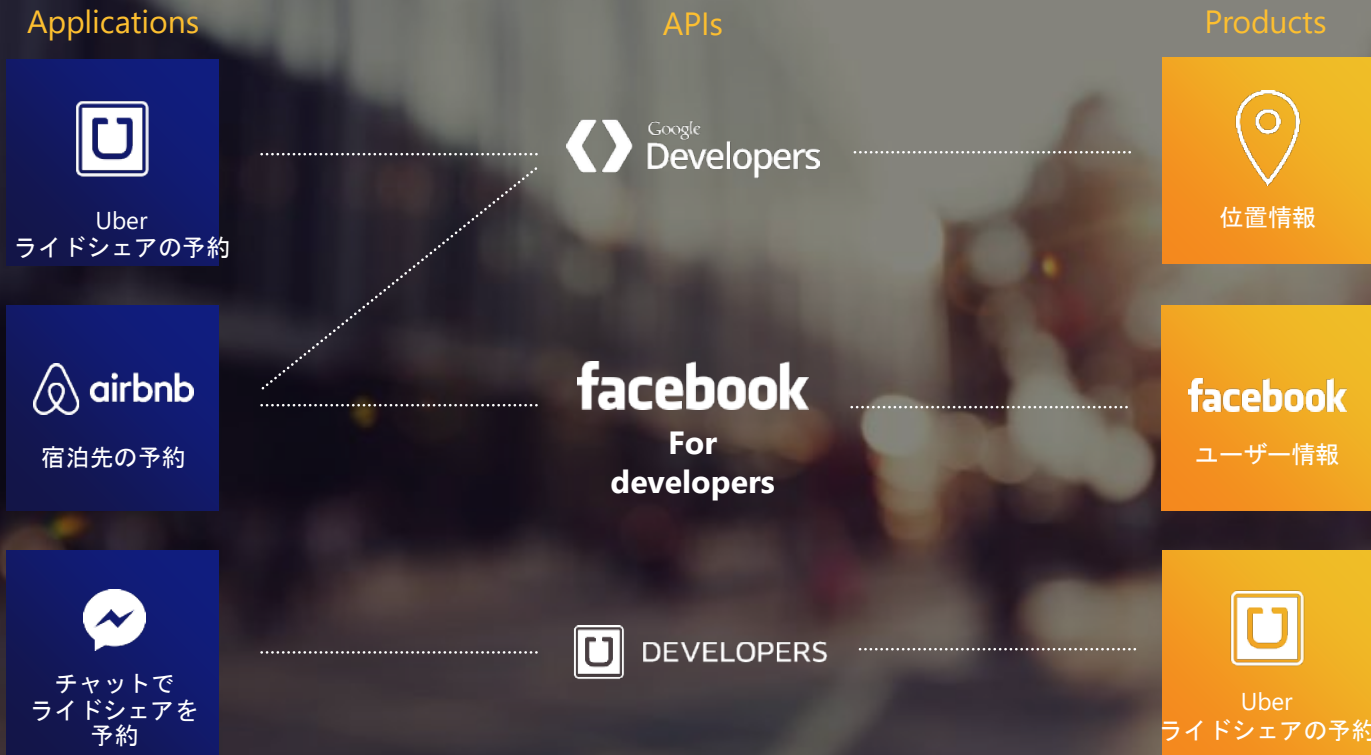
このスライドにおいて利用されている全ての商標登録、ロゴマークはその所有者の資産です。このスライドでは、これらを識別する目的のみでの利用され、特定の製品を支持するものではありません。

Visa Developer

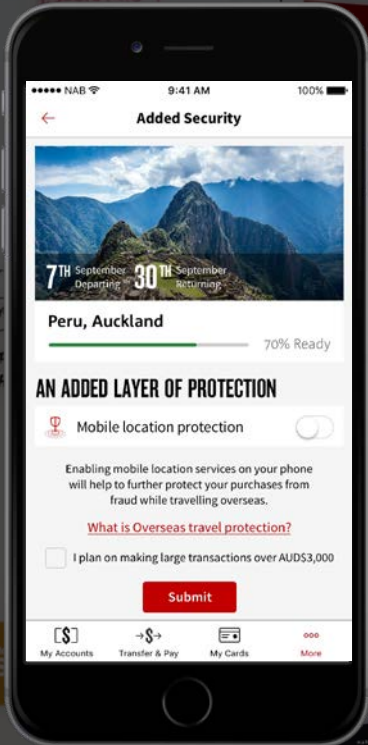
Visa Developerは、50年を超えるVisaのイノベーションの歴史の中でも最も重要かつ画期的な進化である



日常の様々なサービスがAPIによって支えられている



このスライドにおいて利用されている全ての商標登録、ロゴマークはその所有者の資産です。このスライドでは、これらを識別する目的のみでの利用され、特定の製品を支持するものではありません。また、日本国内において未提供のサービスも含まれています。



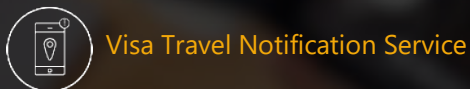
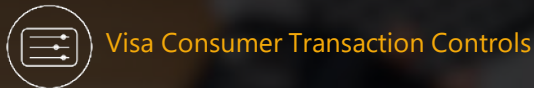
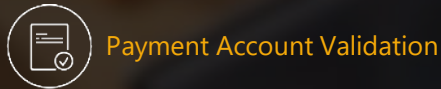
海外旅行時のカード・セキュリティ・コントロール

Visa Developerで現在提供されているAPI群

Payment Methods(決済)



Risk & Fraud(リスク・不正防止)



Data & Analytics(データ分析)



* 上記に記載されているAPI群はVisa Developer Centreにて公開されているものであり、プロトタイプの開発やテストを行うことはできますが、一部日本国内においてサービスのリリースが未定のものも含まれておりますので商用サービスの開始にあたってはご注意ください。

ご清聴ありがとうございました。

VISA